

第 58 回 海洋教育フォーラム in 群馬

海辺の流れと水災害から命を守る

主催 日本船舶海洋工学会 海洋教育推進委員会

日時 令和2年 2月22日(土) 13:30 ~ 16:30

場所 昌賢学園まえばしホール(前橋市民文化会館) 第5会議室

参加費 無料

日本船舶海洋工学会・海洋教育推進委員会主催「海洋教育フォーラム」とは、海に囲まれた海洋国家日本を担う若者や市民の方々に海を知り海への関心を持っていただくことを目的に、全国の小中高校の先生方、および市民の方々を対象として、毎年全国各地で開催している海洋教育講演会です。

群馬県は海なし県と言われていますが、太古には群馬県にも大海原があり、群馬県を流れる流域面積全国一の利根川は太平洋に注いでいます。また、童謡「うみ」も群馬県で生まれました。

そこで今回、講演会のテーマを「海辺の流れと水災害から命を守る」としました。講演会では、海なし県の群馬の子どもや市民が新潟県等の海で安全に楽しく遊ぶため知っておくべき海辺の波に関する知識や、9年前の東日本大震災の大津波の体験から考える昨年秋の台風による河川氾濫時に自分の命を守るために知っておくべき知識や技能に関して、2名の先生方にお話しいただきます。

プログラム

- | | | |
|---------------|------|--|
| 13:30 - 14:00 | 開会挨拶 | 海のことをもっとみんなで知ろう
小林正典(海洋教育推進委員会委員長) |
| 14:00 - 15:00 | 講演 1 | 海辺に潜む危険から身を守り楽しい海遊びを
— 離岸流だけではない様々な危険 —
長岡技術科学大学 犬飼 直之 |
| 15:00 - 15:15 | 休憩 | |
| 15:15 - 16:15 | 講演 2 | 水災害からのサバイバル
— 津波・高潮・河川氾濫から命を守る —
朝日海洋開発(宮城県) 安倍 淳 |
| 16:15 | 閉会挨拶 | 東京海洋大学 田村祐司 |
| 16:30 | 終了 | |

第 58 回 海洋教育フォーラム 群馬大会 講師紹介

海辺の流れと水災害から命を守る

【 講演 1 】 海辺に潜む危険から身を守り楽しい海遊びを — 離岸流だけではない様々な危険 —

犬飼 直之 (いぬかい なおゆき) 国立大学法人 長岡技術科学大学 准教授

<講師紹介>

1964 年東京都生まれ。専門は海岸工学(土木分野)。博士(工学)。潜水土。海岸保全などを行う建設コンサルタント会社を経て長岡技術科学大学へ赴任。重油流出事故や様々な水害、震災、豪雪で調査解析を行う。また東日本大震災では土木学会津波合同調査グループ員として東北北部の沿岸域を調査すると共に津波の動態解析を行った。近年では水難事故の調査解析で全国の海岸を廻る。特に夏の間には海上保安庁と合同で離岸流調査を行っている。調査時には自らも海に入り離岸流を可視化したり漂流してデータを取得する。元フロリダ大学在外研究員。国交省北陸地方整備局事業評価委員など。令和元年第九管区海上保安本部より感謝状と功労盾を受領。

<講演概要>

夏になると多くの方が海辺に集まりますが、海の様々な現象が原因となり、事故も多く発生しています。ここでは海辺にいるときの水中や砂浜上での様々な危険について紹介すると共に、その事故を避ける方法などについて解説します。例えば海辺での流れの1つに離岸流があります。名前は最近では知られるようになりましたが、実態はあまり知られていないかも知れません。今回は、可視化した離岸流をドローンで上空から撮影した映像や、離岸流に実際に流される漂流実験などの映像をお見せしながら、事故にあわないようにするにはどうすれば良いのかを解説します。また、離岸流だけではなく砂浜の上にも波にさらわれる事故やゴムボートや浮き輪に乗っている時に風に流される事故なども発生しており、それらについても解説します。

【 講演 2 】 水害からのサバイバル — 津波・高潮・河川氾濫から命を守る —

安倍 淳 (あべ じゅん) 朝日海洋開発(宮城県)代表取締役

<講師紹介>

1959 年宮城県東松島市生まれ。子供 4 人の父。9 年前の東日本大震災で同地にあった会社と自宅が津波で被災。河口部にあった建物ごと大津波により吉田川を遡上漂流し、7km 上流部の松島町内で河川の土手に這い上がり救助される。現在は内陸部の大崎市に潜水調査工事業を営む会社と自宅を再建した。高校卒業後海上自衛隊に勤務しスクーバ潜水課程、自衛隊体育学校(埼玉県朝霞市)近代五種班に所属した。横須賀教育隊にて体育教官を経て地元に戻り起業し現在に至る。日本赤十字社水上安全法指導員を 35 年継続し、現在は(一社)水難学会理事、兼水難事故調査委員会委員長、(一社)日本小型水難救助艇協会日本支部の代表理事を務める。防災減災活動では総務省消防庁の「動力ボートの効果的活用による救助技術の高度化について」の策定委員を務め、海上保安庁のウォーターセーフティーガイド検討委員として多方面にて水上安全活動を展開している。現在、国立大学法人東京海洋大学に於いて非常勤講師(シーサバイバル講義・実技)を担当、(独)海技教育機構 STCW 基本訓練では水上安全管理に携わる。海外活動では主にアジア諸国に於いて防災講演活動を行い直近では 2019 年マレーシアのコタキナバル、サバ大学にて学生数百名に「UITEMATE」着衣泳の公開講演を行った。2015 年(世界溺水予防会議マレーシア・ペナン)Disaster 部門にて(Float and Wait)の ORAL 発表。2016 年アメリカサンディエゴ IBWSS (全米水上安全・安全運航会議)にて防災講演等を行い水災害に対する備えを訴える。

<講演概要>

近年に於いては水難事故発生は「事故に遭遇してしまったご当人の内的資質」以外に、実は数多くの「不確定な外的要因要件が複雑に重なり合い発生している」事が、理解されるようになって来た。また一方では具体的に水災害から生き延びるための生還の術を、「誰が、どの段階で、どのように、教え伝えるのか」の問題も浮上してきている。これらの問題を考えるうえで重要なのは、まずは水難のメカニズムと真実を知る事であると考え。自身の津波からの偶然の生還例を皆様を紹介しながら、水難事故から自身と仲間と地域をどう守っていくのか？を考える機会と捉えて頂ければ幸いです。